



KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展

介護の仕事は、専門知識・技術、経験に基づき、一人ひとりの人生に寄り添い、尊敬を支える大変重要な仕事です。介護の仕事は、尊く、相手を思いやる気持ちが強く、優しくて、クリエイティブ。日々、取り組んでおられる介護職の皆様への敬意と感謝を表し、介護へのパッション、魅力を自らの言葉で発信する「KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展」を開催します。



クリエイティブを通して
KAiGOの価値を表現、新しい魅力を生み出す
KAiGO PRiDEプロジェクトをトータルプロデュース。
インフォメーションをまとめたデジタルブックレットを、無料配布。
23年度の介護業界の発展を願う中、皆様からいただくご声援を大切にさせていただきます。
本写真展は第一回限定、展示の場を設け、皆様のご声援を大切にさせていただきます。

期間：令和3年9月6日(月)～10月5日(火)
会場：世田谷区保健医療福祉総合プラザ ふれあいカフェ
最終日：令和3年10月6日(水)

主催：世田谷区福祉人材育成・研修センター
共催：保健医療福祉総合プラザ運営管理室
協力：東京ロイヤル株式会社

KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展

期 間：令和3年9月6日～10月6日
会 場：世田谷区保健医療福祉総合プラザ1階
ふれあいカフェ

介護職の皆様への感謝の気持ち、
介護に携わる皆様の声を
研修センターまでお寄せください

発行：世田谷区福祉人材育成・研修センター
〒156-0043世田谷区松原6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階
電話：03-6379-4280
FAX：03-6379-4281
H P：https://www.setagaya-jinzai.jp/



KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展 2021.9.6～10.6



世田谷区保健医療福祉総合プラザ ふれあいカフェ

KAiGO PRIDE in Setagaya 写真展に寄せられた感想 令和3年9月6日～10月6日

項目	記入者	内 容
感謝	家族	介護職の方々は日々大変だと思いますが、笑顔と感謝の気持ちでお仕事をなさっていることに、とても感動しました。家族だと日々のことに追われて、なかなか笑顔で接することができないと思いますが、皆さんの笑顔は利用者の心の栄養になっていると思います。
	家族	一時介護職（ヘルパー）を考えたことがあります、「きつい、大変」という思いで、自分にはできないだろうと思い、踏み出せないままです。しかし、写真展を見て介護に携わる方々の気持ち、心の充実、人生観の変化などを読んだとき、こんなに人に気づかせ、考えさせ、変える仕事なんだと思いました。これからの仕事のひとつに考えたいと思いました。私の母もヘルパーさんにお世話になっています。感謝申し上げます。
	その他	介護職の皆さまがあってこそ私たちです。感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。写真の言葉のなかにあった、「誰かの人生観に心に寄り添いながら触れる」「その人の人生の一部になれる」から、介護職の唯一無二の魅力を知りました。自分も挑戦したいと率直に感じました。写真には、職員の方々の暖かで誠実な笑顔とまなざしにあふれていました。本当に素晴らしくお一人ひとりが輝いておりました。このような機会をいただきありがとうございました。
	その他	介護職の方々は、知力、体力以外にも優しくしなやかな心を持ち合わせた人と存じます。写真からも強さと優しさが感じられました。いつもありがとうございます。
仕事	その他	福祉の仕事が楽しい、素晴らしいとおっしゃって下さることにとても感激しています。またプロの方の撮影されたモノクロの写真が、かえってその人らしさを浮き出させていると感じます。多くの方が介護に対する近寄り難さを感じている現在から、もっと我が事とを感じる人が増えますようにと願います。
写真展	その他	皆さま全員がとてもいい表情をされているのが印象的でした。とても素敵なお写真でした。介護職はとても重要なお仕事です。大変できついこともあるお仕事だと想像致しますが、一緒に添えられた言葉にとても感動しました。
	その他	素敵な写真と言葉（メッセージ）を拝見して、介護職の方々の仕事に対するプライドややりがい等が伝わり、こちらパワーをいただきました。皆さん、とてもきれい。ありがとうございました。
地位向上	家族	何人もお世話になる職業です。子供が母親・父親などに育てられるように人は介護の方の手によって人生の終わりを迎えます。彼らの良心に甘えず、労働に見合った待遇をしっかりと支えてあげるのが社会の責任だと思います。
	その他	介護に日々取り組んでいらっしゃる方の言葉は、心にぐっときました。頑張っている介護職の社会的地位を高める必要性を強く感じました。